

ずっと住みたい
また来たい

魅力あふれる

伊東の温泉と食

伊東 温泉

検索

伊東の温泉は、古くから江戸でも知られていて、大名や庶民からも愛されました。三代将軍徳川家光の時代には、たくさんの温泉を樽に入れ船で江戸城へ送った記録も残っています。

明治末期からの手掘りから機械掘りに発達し、源泉の数は急激に増え、またその湧出量は毎分約31,640ℓ(H29.1現在)にもものぼり、豊かな湯量は全国有数を誇っています。

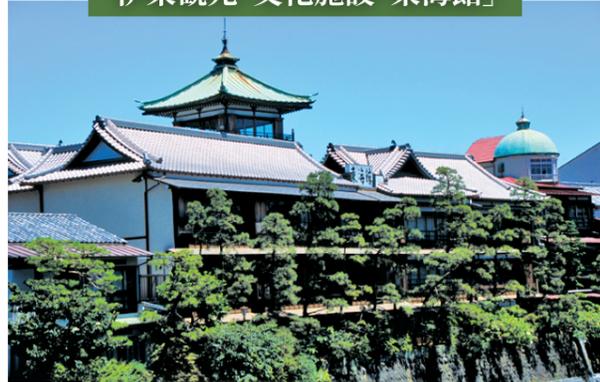
現在伊東市内には、古くから市民に愛される低料金で気軽に入浴できる共同浴場から、日帰り温泉施設、旅館やホテルによる日帰り入浴、手軽な足湯、お手湯等があり、さまざまなスタイルで温泉を楽しむことができます。

お湯かけ七福神(モニュメント)



JR伊東駅周辺の商店街
を中心に、設置されています。
お土産散策と一緒に
モニュメント巡りもおすすめです。
その愛らしい姿に癒されます。

伊東観光・文化施設「東海館」



1928年(昭和3年)創業の元旅館。1997年(平成9年)に長い歴史に幕を閉じ、2001年(平成13年)に伊東温泉の新たな名所として生まれ変わりました。創建当時、職人たちが腕を振った、今や貴重となった伝統的な日本の建築様式をご覧ください。
土・日・祝日のみ日帰り入浴もできます。



伊東の食



自然や気候に恵まれた伊東市では、実に魅力的な、さまざまな食にめぐり合うことができます。

燦々とふり注ぐ太陽のもと、みずみずしく育つかんきつ類、目の前に広がる海から水揚げされる新鮮な魚介、潮風を受け天日干しされた干物、地元の食材を利用した甘味や宿泊先等で提供される食事等々...

食の魅力を発信する取り組みも積極的に展開されています。

伊東市を訪れた人は、このまちの食の豊かさを実感することでしょう。

歴史

伊東市 ゆかりの人物

伊東市 文化財

検索

伊東の名を全国に広めた

伊東祐親



過去と現在が交差する物見塚公園の伊東祐親像

伊東祐親は平安時代末の武士で、伊豆第一の勢力があった。伊東氏は藤原氏を遠祖とし、祐親の祖父の代から伊東に住んだ。祐親は、伊豆に配流されていた源頼朝の監視役も務め、その名は伊東を舞台に始まる「曾我物語」を通じて、後に全国に広まった。

1180年、頼朝が平家討伐の旗揚げをした際、伊豆の武士の多くが頼朝に加勢する中、祐親は平家の恩義に報いるため、頼朝の敵に回った。そして富士川の合戦に赴く途中に捕らえられ、1182年2月、頼朝による赦免を断り、切腹して果てた。また、祐親の子祐清も、平家方として戦で討ち死にしたとされる。

平家の恩義に殉じたその生き様は、武士の誉れとして永く讃えられた。



東林寺
祐親が曾我兄弟の父河津三郎祐泰のために建立したと伝わる。



伝・伊東祐親墓
市指定史跡



葛見神社
伊東家の守護神とされる。

世界的皮膚科学者にして日本を代表する教養人

木下空太郎

木下空太郎は本名太田正雄、1885年伊東湯川の商家米惣に生まれる。女四人、男三人の七人きょうだいで、長兄賢治郎は第二代伊東市長も務めた地方政治家。次兄圓三は関東大震災後の帝都復興事業の中心となった技術官僚である。

正雄は家族の勧めにより、医者になるべく中学から東京に出、東京帝国大学に入学したが、絵画や文学などを好み、木下空太郎の名で文壇に顕れた。特に詩に秀で、北原白秋と競って作品を発表していった。

大学卒業後、皮膚科学教室に進み、大正5年に南満医学堂教授として中国大陸に渡り、ヨーロッパ留学を経て、愛知医科大学・東北帝国大学・東京帝国大学教授を歴任した。病原性真菌、皮膚腫瘍やあざ、ハンセン病などの研究を深めたが、真菌類の分類研究は評価が高く、後にフランス政府からレジオン・ド・ヌール勲章を授与されている。また、「太田母斑」は彼の発見した疾病である。

教授時代の空太郎は、随筆・美術評論・翻訳・キリシタン研究など、幅広い分野の著作を成し、その教養の深さから森鷗外と並び称されていた。

1945年10月、60歳の若さで胃がんのため逝去した。



東京帝国大学教授時代



市立木下空太郎記念館

明治40年築の米惣商店をそのまま使った施設で、国の登録有形文化財となっている。



水彩画「松月院の老松」

高校時代に描かれた水彩画。絵画にも非凡な才が見られる。



伊東公園 木下空太郎詩碑

市内で最初に建てられた詩碑は、直筆文字で「古き仲間」が彫られている。